A photograph of two women standing indoors and shaking hands. The woman on the left has short dark hair, wears glasses, a dark blue zip-up jacket over a white shirt, and a lanyard with a badge. The woman on the right has dark hair pulled back, wears a red short-sleeved button-down shirt over a white long-sleeved shirt, a necklace with a large pendant, and a lanyard with a badge. They are both smiling at the camera. The background is a plain, light-colored wall.

1

4月6日と4月13日の教室当番を募集予定（学年代表）

新年度最初の授業日となる4月6日と、第2週の4月13日の教室当番（初日は教科書配布含む）を募集します。昨年同様、クラス発表後に Signup Genius にて募集します。対象は新小2～新中1のクラスです。クラス発表後に応募開始となるため、ご自分のお子様のクラスのお手伝いが可能です。このお手伝いは、新しいクラスでの教室当番の回数としてカウントされます。募集期間は短くなることが予想されますので、引き続き今後の運営委員会のお知らせをご確認いただき、ぜひ早めのご応募をよろしくお願いいたします。お問い合わせは学年代表 (gakunendaihyo@wjls.org) までご連絡ください。



来年度学級代表選出について（学年代表）

新しいクラスの保護者顔合わせとなる学級懇談会は、5月に開催される予定です。昨年同様、学級代表選出のための対面集会は行わず、2024年度クラス編成発表後に立候補を募り、候補者がいない場合は抽選にて決定します。続報は一斉メールで通知しますのでお見逃しなく！学級代表の仕事内容は、学級代表のガイドライン（告知メールで添付予定）をご覧ください。学級代表は、教室当番・学校行事のお手伝いが免除されます。お問い合わせは学年代表 (gakunendaihyo@wjls.org) までご連絡ください。

ー学級代表選出の日程ー

- ① 4月6日（土）午後6時立候補締切
- ② 4月6日（土）ランダム関数抽選で順位決定
- ③ 4月7日（日）ー4月14日（日）高学年より学級代表・副代表選出者へ連絡確認

創立65周年デジタル記念誌刊行のお知らせ

創立65周年記念誌に創作作品を応募してくだだった生徒の皆様、ご応募ありがとうございました。65周年デジタル記念誌が完成しました。記念誌は創作作品を中心に、校長先生をはじめ学校関係者5名からの記念寄稿文と65年間を振り返る本校の歴史に加え、本年度に開催された、創立65周年記念行事を全て記載しています。作品の一部をご紹介します。

記念誌は [こちらから](#) ご覧いただけます（要2023年度パスワード）。3月末までの期間限定公開となりますのでお早めにご覧ください。改めまして刊行にご尽力いただきました関係者、保護者、生徒の皆様にご心より感謝申し上げます。



【創立 65 周年記念事業】有林浩二参事官の講演会が開催されました



有林浩二参事官

2024 年 2 月 10 日、ワシントン日本語学校に在アメリカ合衆国日本国大使館にて当地の科学技術外交を統括されている有林浩二参事官をお招きし、「科学技術が切り拓く未来社会」と題した記念講演会が開催されました。本講演は創立 65 周年記念事業「未来を創れ！」の一環として行われたものです。講演会では、有林参事官に日本の科学技術政策および当地での対応について熱く語っていただきました。

本校の保護者でもある有林参事官は、医療・バイオ・量子・AI・原子力・宇宙といった日米の間で既に協力が進んでいる分野や、新興の科学技術としてこれからの日米協力をどのように構築していくか、などの課題に取り組まれています。

講演会では、有林参事官から日本の科学技術政策である [Society 5.0 政策](#) が紹介され、例えばビッグデータと AI の活用により、これまでの一方的な情報検索ではなく、その人のニーズに合った最適化された情報の提案が可能な社会になるなど、未来像を分かりやすく説明していただきました。一方で今後、日本の科学技術力・競争力を維持するためには世界の国々とより協力して取り組んでいくことが重要であり、日本と世界の科学者の交流機会を増やしていく必要があること、そのためにも米国に限らず海外で日本の若手研究者が学ぶための機会を促進していかなければならないと強調されました。



また、1 月に大きなニュースとなった日本の小型月着陸実証機 SLIM のお話から、日本人の月面着陸の実現を目指し [日米で協力が進むアルテミス計画の最新事情](#) など、近年、国のみならず民間企業の参入でますます加速している宇宙開発についてご紹介いただきました。最後は、有林参事官のご専門であり、新たなエネルギー生成手段として米国で大きな投資が進む、[フュージョンエネルギー戦略](#) について、海水中からほぼ無尽蔵に燃料が得られること、運用の原理やその安全性についてなど、大きく注目される未来のエネルギーに関する大変興味深いお話をしていただきました。

有林参事官は科学技術・政策の様々なトピックを網羅したうえで非常に分かりやすく説明してくださり、参加者からは、「ぜひ今度は生徒たちにもお話をお願いします」との声が多く上がった素晴らしい講演会となりました。講演会後、管理運営委員会に届いた感想の一部を紹介します。



難しい話かと思ったのですが、多岐にわたっての色々な科学技術のことや、これからの IT について、子供たちにもかかわる将来のエネルギーのことなど、とても興味深かったです。(小学部保護者)

とても分かりやすく説明してくださり、あっという間の一時間でした。科学分野での日本の今後の目標などを知れて良かったです。聞いたことがなかった、フュージョンエネルギーの話ですが、原子力発電との違いなども説明していただき、とても興味深かったです。貴重なお話をどうもありがとうございました。(高等部保護者)

大変素敵なお話で、家で子供に話してみました。興味深く聞いてくれて良い刺激になったと思います。(高等部保護者)

= 卒業生特集 =



本校では3月23日に第65回卒業証書授与式が行われます。卒業学年の生徒・保護者の皆様ご卒業おめでとうございます。コロナ禍からの全面再開を経て、晴れて卒業の日を迎える今年度の卒業生113名を代表し、6名の生徒が卒業にあたっての思いをつづってくれました。

日本語学校小学部での思い出（小学部卒業生 栗原 董仁）



僕は、日本語学校に4年半通いました。6年間より短いですが、それでもたくさんの思い出があります。例えば、3年生のころのズーム授業や2年生のかけ算テスト、初めての實力テストなどです。一番思い出に残ったのは、2年生のかけ算テストです。テストの前は、わからないところがいろいろとあったのですが、練習を何度もしてできるようになりました。今では、すごく簡単です。こうやって日本語学校に通ったおかげで、僕は多くのことを学びました。また中学でも引き続き頑張りたいです。

ワシントン日本語学校（小学部卒業生 松山 寧衣）

私は、小学校4年生の時に、初めてワシントン日本語学校に通いました。その時は、コロナだったのでオンラインでの授業でした。オンラインでは友達ができず、楽しくありませんでした。でも、学校に通えるようになり、5年生・6年生と通ううちに、気がついたら同じ学年のほとんどの人たちの顔と名前がわかるようになり、仲のいい友達もたくさんできました。先生とも一緒に話すことが多くなり、どんどん学校が楽しくなりました。大好きな友達と一緒に卒業できるのが嬉しいです。中学生になっても、ワシントン日本語学校に通っていきたいと思います。

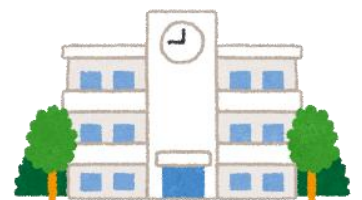


僕にとってのワシントン日本語学校（中学部卒業生 ボンジョヴィ 大樹）



ワシントン日本語学校。それは僕にとって一番しっくりくる居場所です。幼い頃から引っ越しばかりしている僕には、ふるさとと言える場所がありません。友達になる仲間は、話す言語が違っていたり育ちもみんな別々だったりして、どこにいても常に自分が場違いだと感じていました。そんな僕はこの補習校で、ジグソーパズルのピースがぴったりとはまるように、初めて帰属意識を得ることができました。

ここでできた仲間は、みんな僕と似たような境遇で、僕と同じようにアメリカと日本の文化の中で育っています。他ではなかなか共有しあえない特有の思い出や悩みごとを、初めて理解してもらえ、仲間に出会えました。補習校のみんなは将来、世界各国で活躍することでしょう。たとえこの先バラバラになっても、僕たちみんながこの補習校で得たかけがえのない絆は一生の宝です。



新しい道（中学部卒業生 小寺 聖蘭）



中学を卒業するのは不思議な気持ちです。下級生たちのお手本のような存在になれるというワクワクした気持ちと、友達と子供っぽいバカ騒ぎができなくなるのかなという気持ちが半々です。中学校で仲良くなった友達とは学校の外でもつながり、お泊まり会やお誕生日会を通して親友という存在に発展し、毎週の補習校が楽しみになりました。高等部に進級しても、同様の友達関係が続けられるといいなと思っています。学校のリーダー的役割を担う新しい挑戦を通して、成長の機会をたくさんもらえる高等部での最後の2年間で、親友たちと楽しく過ごすのが今から楽しみです。



母と私と（高等部卒業生 小寺 優蘭）



日本語学校生活において、私の母はまるで風紀委員長のような存在でした。朝の「まさかその格好で行くの？」から始まり、「今日も日本語だけで友達と話したよね？」がお迎え後の第一声でした。ため息をつく日もあったけど、そんな母のおかげで清く正しい日本語学校生活を続けられました。友達との学校生活は笑いの宝庫だったように思います。友達とやり取りしたジョーク、生徒同士のドタバタ劇、そして先生たちの意外な一面の発見など、毎週笑いが絶えませんでした。多方面で支えてくれた母、友達、先生のおかげで、アメリカで日本人として過ごす貴重な時間を送ることができて感謝の気持ちでいっぱいです。そんな11年間の思い出を胸に、未来に向かって突き進みます。



>11年間（高等部卒業生 横井 英奈）



今までの日本語学校での生活を振り返ってみるとたくさんの楽しいことを思い出します。年に一度の運動会、小6からやっている生徒会活動や毎週休み時間に友達とふざけ合うことなど、大イベントから些細なことまでたくさんあった。小学生の頃は日本語学校のせいで誕生会に行けなかったり、遊べなかったりと毎週日本語学校が苦痛だった。だが、今になってその大切さがわかるようになった。日本語学校で得た教育や体験は、11年間毎週土曜日を費やしてきた分以上の価値があった。最終的には、「日本語学校に行け」「宿題をやれ」と毎週毎日言ってくれた両親、実際に教えてくれた先生方、そして、いつも学校に行くモチベーションとなった友達にとっても感謝している。

WJLS 同窓生ネットワークにご登録ください（広報部）

ワシントン日本語学校には、同窓生ネットワークがあることをご存じですか？卒業・退学後も同窓生とのつながりを大切に、同窓生の輪を広げることが本校の願いです。本校ウェブサイトの[同窓生ページ](#)にある専用フォームからぜひご登録ください。登録していただいた同窓生には、学校から定期的なお知らせをお送りします。多くの同窓生の参加をお待ちしています！

【創立 65 周年記念事業】久能祐子博士講演会が開催されました

2 月 24 日、ワシントン日本語学校に [S&R EVERMAY 財団](#) より久能祐子博士をお招きし、「跳ぶように考え、這うように証明する！」と題して講演会が開催されました。本講演は創立 65 周年記念事業「未来を創れ！」の一環として行われたものです。

久能博士は基礎科学研究からバイオテック起業後、二度の新薬創出の成功を収められ、近年は社会起業家として若手起業家、芸術家や研究者の支援・育成事業を日米で行われています。講演会には特別授業として高校生が参加、会場の 4 階図書室には多くの保護者が集まり盛況な会となりました。



久能祐子博士



講演会では、まず久能博士のこれまでの「履歴」を紹介していただき、バイオテック起業後、新薬創出までの道のりが資金調達など必ずしも平坦な道ではなかったこと、一方でそのような「リスク」をとったことに対して「自己効力感」をキーワードに当時を振り返り、イノベーションの「山」が見えていた、と興味深い裏話をお話ししてくださいました。イノベーションを登山に例えられ、インベンション（発明・発見）からイノベーション（技術・社会革新）までの道のりのイメージを分かりやすく共有していただき、イノベーションを生み出すための条件、リスクテイク、失敗についての考え方を説明してくださいました。また近年取り組まれてきた社会起業家としての活動事例として、社会的インパクトを生むビジネスエコシステムについてご自身で立ち上げたソーシャルインキュベーターを例に、21 世紀型ビジネスモデル（利益＋インパクト）、日本型エコシステム、女性起業家への投資支援をご紹介いただきました。

本校は教育目標としてグローバル人材の育成を掲げています。久能博士は今後 30 年で人類と地球のパラダイムシフトが起こると予見、競争社会からオリジナリティや多様なインパクトを目指す非競争の社会になるという大変興味深いお考えをご紹介くださいました。またそのような 21 世紀の新しい社会を担うリーダー像として、価値観を共有する力のほか、モデルや過去（成功も失敗も）に捕われない柔軟性などを提言されました。最後に高校生と保護者に向け「将来のことは誰にもわからない！」「世界は広い、人生は長い」「Think Big, Step Small！」とのメッセージで締め括られ、多くの成功体験をなされた今でもオープンで柔軟な姿勢を持ち、未来志向である久能博士の人間的な魅力が伝わる講演会となりました。講演会で使用されたプレゼンテーション資料は、本校ウェブサイト保護者ページ＞ 家庭学習を応援（要パスワード）＞ 保護者向け講演会資料一覧 にアップロードされていますので、ぜひご覧ください。



質疑応答時には、高校生からの質問にも真剣に耳を傾けていただき「何かをやりたい時は周りに自分と同じ意見の人を見つける」、「自分の可能性の限界を自分で決めない」、「リスクの感覚は自分と他人で違う、自己効力感を信じる」など一人一人の質問に丁寧にご回答をいただきました。講演会后、管理運営委員会に届いた感想の一部をご紹介します。

自己効力感、ビジョンとはゴールから見えるものという言葉が印象に残りました。（小 5 保護者）

自らのキャリアパスに基づく助言が印象的でした。従来のような積み上げ型の人生設計よりも、ジグソーパズルのようにその時々で柔軟に組み合わせていく人生設計が相応しいと感じました。（小 3 保護者）

「飛び込んでから理由を探す」という前向きでプロフェッショナルを感じずにはいられない一言にすごく心を動かされました。折角アメリカにきたのだから沢山チャレンジをして、ここでしかない経験を積み、先生のように社会に貢献できるような人になりたいと思います。(高校生)

今年卒業で自分の将来に不安を感じていましたが、「未来は誰にもわからない。リスクをとってみよう」というメッセージに少し不安が解消されました。自分の未来は無限に広がっていて、自分を信じてゴールに向かって努力をすれば成功につながるかもしれない。そんな希望を今日新たに持てた気がします。(高校生)

久能博士、素晴らしいお話をありがとうございました！



【予告】特別総会は 4 月 20 日（土）です

2024 年度の特別総会は 4 月 20 日（土）に開催されます。詳細が決まり次第、保護者の皆様へご連絡いたします。特別総会では新年度の運営方針をはじめ、運営委員会で活発に議論されている内容を中心に発表を行う予定です。また、2024 年度予算の審議も行います。総会は皆様のご意見やご提案をいただく貴重な機会です。ぜひご参加くださいますようお願いいたします。お問い合わせは運営委員会 (uneiiinkai@wjls.org) までお寄せください。

新管理運営委員からのご挨拶



ジャコブソン彩子

以前は総務部で、今回は教育人事部で学校のお手伝いをするようになりました。補習校には上の子が小1の時に日本から引っ越してきて以来、子供達がお世話になっております。転入当時は小1の子に加えて幼児がおり妊娠中で、その後も乳児を連れてお手伝いは思うようにできませんでした。コープ形態の学校でのお手伝いは義務で、当時周りの保護者の方々には「できる時が来たらその時にたくさん手伝えば良い、私たちもそうだったから」と言っていたが、後々頑張ろうと思っていたことを思い出します。子供たちも高1・小6・小2と大きくなり、また土曜に何かできないかと考えていました。教職員の皆様、運営委員、教育人事部の先輩方にご指導いただき、学校の運営のお手伝いに励みたいと思います。よろしくお願いいたします。



羽田真実子

今回、教育人事部でお世話になる羽田（はだ）です。日本を27年前に出て以来、来年5年生になる息子の誕生までは、ほぼ英語のみの生活をしていましたが、息子の誕生を機に、「我が子には日本語を分かってほしい」という思いを抱くようになり、忘れかけていた日本語を再び使う日々に入りました。日本で成人した私でさえ怪しい日本語を、アメリカ生まれ&育ちの息子にいかに習得させ、どこまで求めていくのが適切かと、自問、葛藤の日々です。補習校には同じようなお気持ちの親御さんがおられると思います。そうした気持ちを汲み取りつつ、日本語学校運営に少しでも協力できればと思っています。お気軽にお声をおかけください。よろしくお願いします。

委員長からの報告



初めまして。3月2日に開催された2023年度第11回管理運営委員会をもって、新委員長に就任しました栗原美恵と申します。現在小6と小3に子供がおります。どうぞよろしくお願いします。



三寒四温とはよく言ったもので、暑いくらいになった翌日にはダウンジャケットを着こむような日々に、慌ただしいながらも春の訪れを感じます。3月10日（日）には夏時間も始まりますし、体調管理には気を付けたいところですね。

今回の管理運営委員会冒頭では、欠員に伴う新委員の承認のほか、卒業に伴う退任者や4月の特別総会で交代する委員の承認が行われました。この2カ月で半数近いメンバーが入れ替わることになります。引継ぎなど忙しくなりますが、現委員・新委員の皆さんの日本語学校を支えて行こうというやる気を感じ、大変頼もしく思っているところです。

2023年度中に活動していた「創立65周年記念事業実行小委員会」を含む4つの小委員会は、規約に則り今月で活動終了となります。一方で、新年度に向けて「年中組新設小委員会」が新たに承認され、幼稚部年中組設立について今後様々な要素を検討していきます。その他、2024年度予算や日本語学校によるSSL付与についての審議などが積極的に行われました。

引き続き、保護者の皆様からの温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。



委員長：	栗原美恵
副委員長：	小寺友美
総務部：	松林拓磨（部長）・大杉真名美・竹村聡子・鶴見圭祐・松田真実
財務部：	グリフィン尚美（部長）・牛嶋 崇
教育人事部：	大島由美子（部長）・片田順子・塩崎桃子・ジャコブソン彩子・羽田真実子
広報部：	河野真弓（部長）・竹内由美
学年代表：	大島千枝（低学年代表）・向山こずえ（中学年代表）・島未知子（高学年代表）

